

月例会ダイジェスト【44】

IT化の進歩が著しい昨今、産業保健分野では特定健診以降より電子化された個人の健康情報が活用できるようになった一方で、多くの課題や可能性を残しているのが現状である中、今回のさんぽ会は「職域におけるITの活用」をテーマに展開された。コーディネーターは、福田洋氏(順天堂大学医学部総合診療科)、齋藤正朗氏(DeSCヘルスケア株式会社)、金森悟氏(伊藤忠テクノソリューションズ)、奥村政彦氏(セコム株式会社)、吉田裕氏(株式会社エコ)の5名。

はじめに、イントロダクションとして福田氏が、5年前のさんぽ会において「産業保健の分野でSNSをどう使うか」をテーマに議論し、「SNSを利用してもface to faceの議論が大事である」と結論付けたこと等を語った。続けて福田氏は、PHRに関する日本の現状や海外でのサービスについて述べ、日本ではまだ盛り上がっておらず、「病院の電子カルテは閲覧性が悪くて不便」「健康系アプリは定着していない」といった課題を提示した。そして、今回のさんぽ会では身近な話から最新の話題までITについての議論をしていきたいと結んだ。

これを受けて、齋藤正朗氏が、話題提供として「保健事業でのIT活用 KenCOMの事例を通じて」をテーマに、同社のサービス内容からIT導入の意義まで、様々な事例や実際の利用シーンの紹介等を交えながら語った。パソコンよりスマートフォンで自分のデータを管理する時代に、一貫してITをベースに人を動かすことをコンセプトに仕事を続けてきたという齋藤氏は、「歩活」というアプリを使って歩くイベントを行ったり、「さんぽジスタ」という個人戦の歩数計によるサービスを提供したりといったように、日々ユーザーの利用価値を高めるためにサービスの分析・改善を行っている。そして、齋藤氏は「産業保健の現場でIT化を進めるためには機能的価値訴求(エビデンス、有効性)に留まらず、情緒的価値訴求(エモーショナル、共感性)が重要である」と述べた上で、「ITは単なるツールであり、目的ではなく手段である」と語った。そうした意味で、「歩活」のイベントでは、スマートフォン上でLINEのスタンプのような機能を活用して職場でのウォーキングチーム内でリアルタイムにお互いを励まし合ったり、職場のチームの様子がランキング等で把握できたりすることで、情緒的価値訴求を図っているといえる。イベント参加者からは、「職場の一体感が醸成され、メンバー間のコミュニケーションが向上した」との声も上がっている。そして最後に、「産業保健の現場にITを取り入れる際は、どんな保健事業をしたいかを明確にし、イメージを持って行うことが必要であり、

“気づいたら健康に良いことをしていた”というようにできるのがITの良さである」と結んだ。

齋藤氏の発言後、参加者よりアプリユーザーを集めるための工夫についての質問があり、齋藤氏は「職場で半分以上の人が使うようになれば無関心層も関心を持ちはじめる。関心のある人を確実に取り込むことが肝要であり、職域ではそうした手法を活用しやすい」と答えた。

後半は、スタッフ・働く人の両面から、職域で支援をするためのITの活用についてディスカッションを行った。まずはスタッフの支援の面で、産業現場の活用状況について、参加者から「デジタル化はしていても紙より届くのが遅い」「健診結果だけでなく社員の働き方も見ていかなければならないので、総合的なシステム化はできていない」といった意見が挙がった。さらに金森氏より「eラーニングのシステムを使った健康支援」についての情報提供があり、「eラーニングを使うことで、会社や社員の情報を収集して課題を判断することにより、高速でPDCAを回して活用できるのがITの強みである」と述べた。続いて、働く人の支援の面でこれから先の状況について「目的を明確にすれば、ITも使い勝手が良くなるのではないか」「プライバシー等の課題もあるが、法律は後手に回りがち。受け入れられたら勝ち組になる。ユーザーは、そうしたことを理解した上で利用することも必要」といった意見が参加者から挙がった。

会の最後には、コーディネーターからそれぞれの総括が示された。「今後は、もっと医療スタッフの声を聞いて開発を行えば、より良いものができるのではないかと(吉田氏)」、「ITの力を使ってどう効率化していくかが大事(奥村氏)」「新しいツールにアンテナを張り、自社で使えそうなのかを意識していくことが大切(金森氏)」「リアルで実現できていることを無理にITに移行するのは失敗をするので避け方が良い(齋藤氏)」そして最後に、「ITはツールであり、対象は人である。人がどう反応するのかを見なければならぬので、やみくもなIT化は勧めない。これらはすべて、健康教育や健康管理の本質に近づくような話である」と福田氏が結んだ。参加者の職域における今後のIT活用の様々なヒントが提示され、この日のさんぽ会が締め括られた。



話題提供で発言された、齋藤正朗氏

さんぽ会の詳細は下記サイトをご覧ください。

- ホームページ <http://sanpokai.umin.jp/>
- FBページ <http://www.facebook.com/sanpokai>